
冬の寒い雪の降る日

ウメ助

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冬の寒い雪の降る日

【コード】

N0590C

【作者名】

ウメ助

【あらすじ】

これはある、冬の寒い雪の降る日の話

俺が初めて彼女に、髪が雪のように白い少女に出会ったのは冬の寒い雪の降る日だった。

「君は何故、こんなに寒いのに上着も被らないでこんな所に立っているんだ？」

「寒くないからよ。」

「じゃあ、何故寒くないんだ？」

「人間じゃないからよ。」

「じゃあ、人間じゃないなら、何なんだい？」

「……………そんなの、私だって知りたいわ。」

「そうかい、また来るよ。」

「ええ、また今日のような冬の寒い雪の降る日に。」

次の日、彼女は居なかった。その次の日も、その次の日も、そして一年が過ぎた。

「君は何故、こんなに寒いのに上着も被らないでこんな所に立っているんだ？」

「……………最初と同じね。」

「ああ、同じだな。」

「私は多分、冬の寒い雪の降る晩しかいない存在なのよ？」

「何故、多分でしかも疑問形なんだ。」

「そんなの知っちゃこっちゃないわ。」

「クツクツそうか。」

「何？何か、可笑しい？」

「いや、なーんにも。」

「こんな私もヘンだけど、貴方も充分ヘンだわ。」

「そうかあ。」

「そろそろ、帰るの?」

「ああ、また来るよ」

「ええ、また今日のような冬の寒い雪の降る日に。」

やっぱり次の日も、彼女は居なかった。その次の日も、その次の日も、そして一年が過ぎて、

「君は何故、こんなに寒いのに上着も被らないでこんな所に立っているんだ?」

「とあるバカが来る予感がしたから、待ってやったのよ。」

「それはありがたいなあ。」

「別にあんたじゃないわよ。」

「それは、残念。」

「あんたはさあ、寒くないの?私は大丈夫だけど。」

「凄く寒いぞ。お前と話していると、心は暖かいけどな。」

「あんたは、よく平気な顔でそんな事を言えるわね。」

「別に平気ではないんだけどなあ。」

「そろそろ、帰るの?」

「ああ、また来るよ」

「ええ、また今日のような冬の寒い雪の降る日に。」

やっぱり次の日も、彼女は居なかった。その次の日も、その次の日も、そして一年が過ぎ

「君は何故、こんなに寒いのに上着も被らないでこんな所に立っているんだ?」

「毎年来る、物好きのバカを待つてるからよ。」

e
n
d

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0590c/>

冬の寒い雪の降る日

2011年3月28日08時03分発行